

令和 8 年度 事業計画書

社会福祉法人 援助会



養 護 老 人 ホ ー ム 聖ヨゼフの園
特 別 養 護 老 人 ホ ー ム 聖ヨゼフの園
短期入所生活介護事業所 聖ヨゼフの園
居 宅 介 護 支 援 事 業 所 聖ヨゼフの園
聖 ヨ ゼ フ の 園 ヘルパーステーション
聖 ヨ ゼ フ の 園 生活支援センター
聖 ヨ ゼ フ の 園 介護職員初任者研修事業
グ ル ー プ ホ ー ム 聖ヨゼフの園
デ イ サ ー ビ ス 聖ヨゼフの園

目 次

経営理念・基本方針・理念指針・・・・・・・・・・	2
社会福祉法人援助会組織図・・・・・・・・・・	3
事業計画・・・・・・・・・・	4
法人・特養・短期・・・・・・・・・・	8
養護老人ホーム・・・・・・・・・・	10
居宅介護支援事業所・・・・・・・・・・	12
訪問介護事業所・・・・・・・・・・	14
グループホーム事業所・・・・・・・・・・	15
デイサービス事業所・・・・・・・・・・	17



経営理念

地域と連携し社会に貢献するために、『人に尽くす』伝統の精神を活かし、効果的事業を行う

基本方針

- ⊗ 全ての人は貴く、愛される存在であることを自覚する
- ⊗ 全ての人と心の触れ合いを大切にし、癒し癒される喜びの人間関係を追求する
- ⊗ 利用される方々が喜びの人生を過ごすことができるよう、最善を尽くす

理念指針

- ・ 地域と連携し、社会に貢献する。

この事業は地域社会に支えられている。地域社会、地域の方々の存在があって初めて成り立つ。地域と連携し、社会に貢献する事業基盤なくして施設は存在しない。このコンセプトは、社会福祉事業が成立する根幹であり、命である。

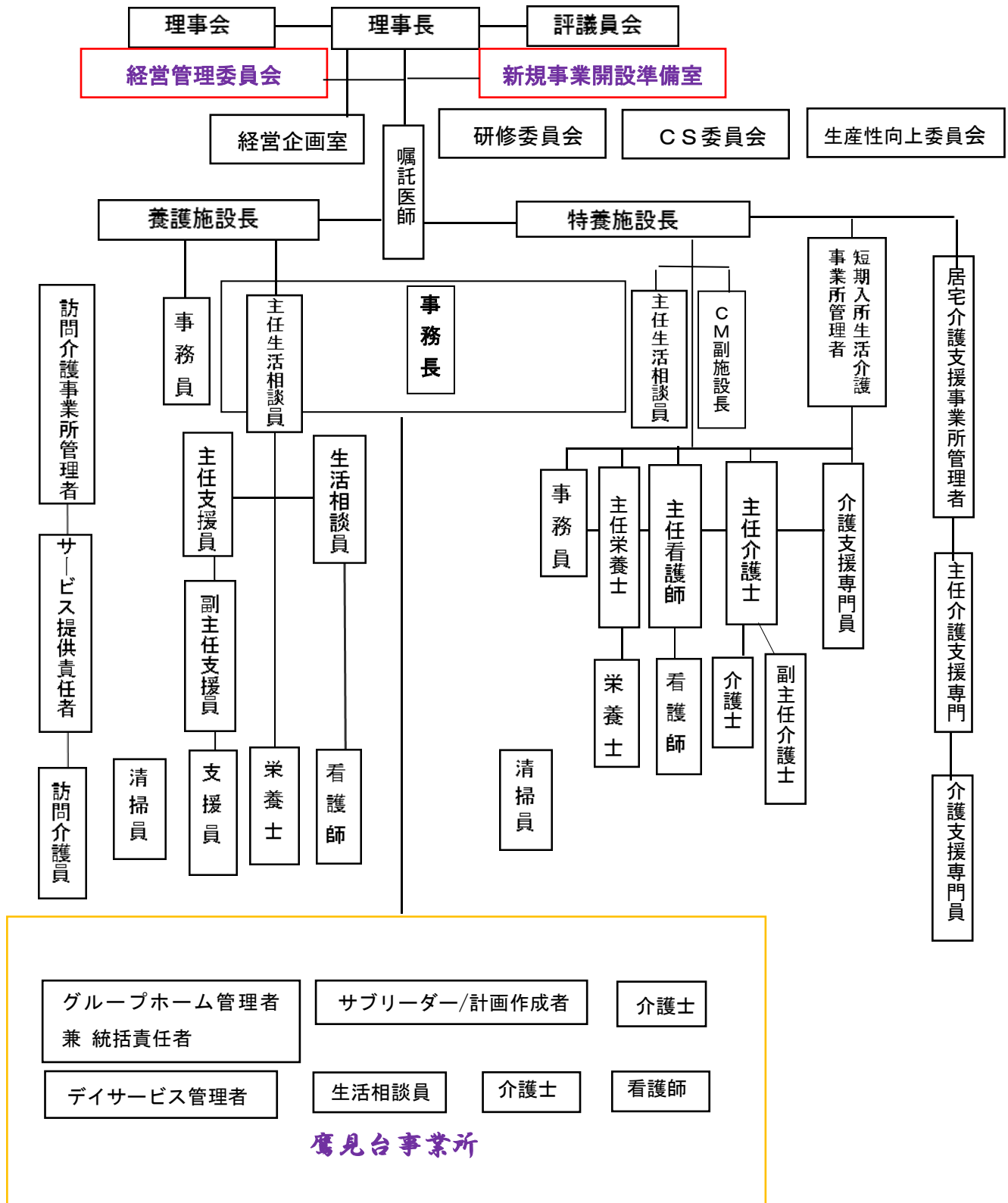
- ・ 『神と人に尽くす』精神を全うする。

利用する方々の人生に最善を尽くして寄り添うことはキリスト教の精神であり、その伝統が聖ヨゼフの園を支えている。『神と人に尽くす』ことを我々のミッションとして、全力で“心”を尽くした経営を行う。

- ・ 伝統を活かし、効果的事業を行う。

聖ヨゼフの園の誇らしい伝統を事業の強みとして活かしながら、それでも事業と人が時の変化に対応しなければ、その伝統を継続することはできない。効果的事業の実践は、時代を生き残り社会福祉に尽くすために果たさなければならない目標であり、新たな伝統を築く路である。

社会福祉法人援助会 老人ホーム聖ヨゼフの園 組織図 R8年度



事業計画 (令和8年度)

1. 事業の柱

経営目標	ビジョン	R8年度目標
中期経営計画	VISION2030	5ヵ年事業拡張計画2億円の初年度として活動開始
収益改善	事業拡張、生産性の高い間接業務で安定化を図る 経営的課題	① 各事業所の収益強化 ② 経費削減 ③ 業務効率化
生産性向上	『もの』の効果的活用	① ロボット・ICT対応 ② 生産性向上委員会活動と業務改善&効率化
伝統の理解	経営理念の理解とプロ目標の設定 職員の課題	① 経営理念の意識具現化 ② CS委員会活動で伝統の精神喚起
プロの仕事	経営も職員もこの仕事のプロ	① 他職種連携の組織力 ② 勉強を欠かさない向上心 ③ 変化対応の柔軟性

法人援助会の事業安定は、現状の売上6億円規模から5年間で2億円増加し、年商8億円・資金収支余力4,000万円までの事業拡張を実現すること。当然、拡張事業は北九州エリアが主流であり、地域密着経営で地域社会に貢献すること。

尚、このために『新規事業開設準備室』を設け、常務他計4名にて4月より活動開始する。

現状は、『人』と『もの』にまつわる変化は順調に推移しているが、100年の老舗法人をつくるために必ず経なければならない路であり、今年度より更に進化していく。

人については、人材の入れ替わりもあって経営が目指す理念経営はまだ不十分。良質の組織を完成させるべく、改めて職員が目標に掲げる『人としての成長』を進化させ、この職業マインドに必携の『心』『技術』『知識』を満たす職員像を完成させるための研修また福利厚生（職員への物的サポート）を充実継続する。

ものについては、DX対応や働きやすい職場環境づくりの投資は旺盛で、年間1,000万円程度を費やしている今の予算規模は継続し、社会福祉法人経営として優秀な立ち位置をキープする

令和8年3月3日

社会福祉法人 援助会
理事長 木戸邦夫

教育・研修

園内研修

目 標	研 修 内 容
新任職員 園内研修では特に新任の研修に力を注ぎ、自立に向けて全園あげて養成に取り組む。	【介護士・支援員】2ヶ月間、新任1人に複数の担当介護士が理念に基づいた指導にあたる。(介護技術、バイタルチェック、観察方法、体位変換・安楽な姿勢、日誌書き方、報告の仕方、介護職と他部署間の連絡方法、報告・連絡・相談の方法、提出物の提出方法、記録物の捺印方法等々) 評価反省を実施し養成にあたる。 新任は研修に参加 【看護師】新任研修に参加。看護全般、他部署間との報告・連絡・相談、提出物の提出方法。 【事務所】事務全般、受付業務全般、接遇、他部署間の報告・連絡・相談。 【栄養士】栄養管理全般、他部署間との報告・連絡・相談、提出物の提出方法。
全職員 ① 毎年同じことを繰り返し研修する事によって、初心に返り新たな発見、疑問等に気づく。 ② 勤務年数に応じた知識の構築を目指す。 ③ 講師を招く研修 ④ 講師に学ぶ研修 人材育成教育 ガバナンス教育 * コンプライアンス * モラル etc.	・ 理念、年度事業計画の説明会、認知症、機能訓練 ・ リスク・身体拘束・虐待、体位変換、感染症、口腔ケア、心肺蘇生日誌の書き方と報告の仕方、「看取り」ケア、研修報告会、介護保険の動向について、防災訓練（夜間想定・昼間想定）…年に2回、外部講師防災講習 ・ 中堅職員の意識化を図る。 ・ リハ研修、認知症研修 ・ 外部講師/大坪研修：年2回 ※一般 ※リーダー ※管理職 ・ 外部講師の研修を受けながら、成長する機会を得る取り組み ・ 訪問介護個別研修 ・ 職務分掌役割研修 ・ 次世代リーダー研修 ・ 個別能力向上研修 ※ 優れた組織事業は、全ての職員のより一層の職業能力向上が必須。特に、<u>リーダー職員の経営目線が無ければ良質の事業は衰退、そのあり方が問われている。</u> 同時に『正しさ』と『満足』を満たす教育に傾注。

令和 8 年度 職員研修予定（階層別研修&その他施設内研修）

	管理職	役職	一般	新任	全体(その他)
	日中・4.5 時間 2回／年	日中・3 時間 2回／年	夜間・2 時間 2回／年		
4月					
5月	理念・事業計画・コンプライアンス研修				
6月					(全) 情報管理研修 (青) 感染症(BCP & 食中毒) (鷹) 食中毒・食事提供
7月					(全) CS 研修 (特) 事故防止・身体拘束・虐待 防止 (特) 重度化予防(ノーリフト・褥瘡)
8月					(全) 看取り (鷹) リスク・身体拘束・プライバシー保護・ 虐待 口腔ケア
9月	10:30～12:00 13:30～16:30 経営メンバー研修①	14:00～17:00 現場リーダー研修①	19:00～21:00 一般職員研修 ①		(養) 事故防止・身体拘束・虐待防 止研修 (青) 心肺蘇生 (鷹) 消防訓練
10月	理念・コンプライアンス研修				(青) 消防訓練(地震・火災)BCP シミュレーション (鷹) 感染症
11月					(青) 嚥下口腔 (全) 認知症
12月					
1月					(青) 看取り (鷹) リスク・身体拘束・虐待 権利擁護・人権
2月					(青) 事故防止・拘束・虐待防止 (全) 情報管理研修 (鷹) 災害・感染 BCP
3月	10:30～12:00 13:30～16:30 経営メンバー研修②	14:00～17:00 現場リーダー研修②	19:00～21:00 一般職員研修 ②		(青) 消防訓練(火災) (鷹) 消防訓練 看取り

※階層別研修 →集合研修

※集合研修とともに、資料配布、動画配信、オンライン研修等も取り入れていく。

※生産性向上委員会 情報管理、その他の研修を随時実施予定。(チャット等での情報配信含む)

※新規採用時、感染症、BCP、事故防止、虐待防止、身体拘束等適正化の研修を実施する。

令和8年度 年間スケジュール

【行事】

日程	特養	養護
お花見	未定	未定
創立記念の日	4月10日（金）、セミナーは5月開催	
運動会	未定	未定
食事会	未定	未定
理事会	3月、5月、以外は不定期に開催	
家族親睦会・交流会	未定	未定
地域の盆踊り	未定	
納涼大会	未定	未定
園遊会	未定	
外食会	未定	未定
職員忘年会	12月11日（金）ホテルクラウンパレス北九州	
クリスマス会	未定	未定
餅つき	1月上旬	

※行事については、感染症の状況などを鑑み、開催時期・有無を決定する。

【防災・消防訓練】

5月	感染症対応訓練（COVID19）
10月	消防訓練（地震・火災）
翌年3月	消防訓練（火災）

法人・特養・短期 事業計画

社会福祉法人 援助会
理事長・特養施設長 木戸 邦夫

1. 令和8年度以降の法人の方向性

令和8年度以降5ヵ年の法人事業は、『経営VISION2030』として事業拡張の実施。

- 年商6億円 ⇒ 8億円 2億円の増加（含みとして10億円規模を目指す意図あり）
- 資金収支1,500万円 ⇒ 3,500万円～4,500万円の幅で安定収支を

法人援助会が辿ってきた平成18年度からの①『変革期』②『拡張期』③『定着期』④『発展期』において、①では赤字体質の脱却、②では事業拡張に鷹見台事業創設、③では拡張安定に至る経過、④では今後の発展に対応する経営ビジョンの確立と拡張PDCA実現、こうした流れを経ながら老舗の優良法人としての位置づけを確立する。

④ 発展に対応する経営ビジョンの確立と拡張PDCA実現

そこで、今後の事業発展については以下のようにビジョンを掲げ、事業が安定していくこと、同時に職員が働きやすい職場環境を今以上に構築していくために必要なことのポイントは、

① 事業規模による安定の布石

事業収支：売上高8億円（現状よりも2億円増加） 収支3,500万円（〃2,000万円増加）・・・小規模、地域密着事業、居宅サービス系、障害者福祉等の展開

② 生産年齢人口減少対応の人材確保、育成

- ・生産性向上の進化・・・DX推進の加速、テクノロジー教育 etc.
- ・外国人材の登用・・・現在は2名、増加傾向に舵取りの必要性有無の検討
- ・人材育成教育・・・職業能力の向上による組織力強化、地域密着のブランド発展
- ・外部連携強化・・・事業を支えるステークホルダーとの良好な連携強化

令和8年4月から事業拡張に向け、特にこの5年間で老舗として安定経営ができる企業体質を構築していく。

そこで次のような観点で法人事業を進めていく。

- ① 収益確保の安定化、そのための経営企画を司る経営管理委員会の本格活動
- ② 業務、福利厚生での状況に応じた活動再開、特に行事・レクリエーション等の実施
- ③ 人材育成教育の集合実施再開、同時に職員の外部研修参加奨励
- ④ 生産性向上の取組み、そのための現場業務の改善活動
- ⑤ ④に関連して、ほむさぽ向上委員会の活性化とロボット・ICT利用の前進・再考
- ⑥ CS委員会の活性化
- ⑦ 部署、職員間の連携強化
- ⑧ ボランティア活動の活性化
- ⑨ 協会団体活動、外部関係先との連携
- ⑩ 令和8年度からの事業拡張に向けた準備・実行のための研究活動&企画・実行

「経営の安定化を強化し、職員の働きやすい職場環境も進化」

2. 特養・短期事業の方向性

全国的には特養の6割が経営赤字の時代。しっかりした経営管理ができていても、質の良さによって収支に余裕が持てる時代ではなくなってきた。しかしながら、法人の伝統の良さや对外活動の活性化によるブランドと知名度向上の意欲や職員の質と外部活動の豊かさによって入所待機者は多く、事業安定は懸念ない。

ご家族を含めた業務活動をどう再開していくのか。活動の少なさは利用者の楽しみと豊かな生活感や職員の生き甲斐に繋がる仕草を抑制することになり、経済や社会環境と同調することではなく、我々の本来の職業観や使命を果たす活動年度にしなければならない。

また、特養・短期事業の課題は入所者の入所開始から健康面での状態懸念頻度が増し、したがって退所時期が早まり対応の困難さは従前に比べ重い。

老人福祉施設の課題は、こうした入所者の重度化や職員の労働負荷に対する手当を経営の重要課題として取り組んでいくこと。特に、施設系また居宅系の特徴を勘案しながら、「もの」と「仕組み」の充実を図らなければならない。

- ① ロボット・ICTの現場、管理部門での進化
- ② 現場の仕組みの効率化、これは現場リーダーと職員の対応で実現すること
- ③ 新たに迎える外国人実習生の成長
- ④ 前述の、行事や職員研修等での集合実施
- ⑤ 職員のチームワーク充実と理念・歴史の傾注、まだ弱いこの部分の進化

その他、決算関係予算等の役員会提出資料を参照ください。

3. 令和8年度 事業収支予算

特養・ショートステイで資金収支＋1,000万円を計画する。

(万円)

	特 養	ショートステイ	計
収 入	23,340	1,530	24,870
人件費	15,060	900	15,960
事業費	3,940	220	4,160
事務費	2,670	160	2,830
その他	930	10	940
収支差	740	240	980

養護老人ホーム 事業計画書

養護老人ホーム 聖ヨゼフの園

施設長 逆瀬川陽祐

1. 令和8年度 予算

(万円)

	令和7年度(見込み)	令和8年度予算	差 額
収 入	13,031	13,325	294
人件費	7,445	7,230	△215
事業費	3,544	3,441	△103
事務費	2,701	2,670	△31
その他	369	330	△39
資金収支	△1,028	△346	682

【 収入 】

- ・ 令和7年度(令和6年2月末現在)
 - * 平均在籍者数 57.3 名 (-2.6) * 平均入居稼働率 90.9 % (-5.4)
 - * 月平均収入 1,077 万円 (-31) * 一人平均収入 18.7 万円 /月 (+0.2)
- ・ 令和7年から行政の措置控えにより、定員割れを起こしている。11月から徐々に入所が続き、3月には59名、翌年度4月には満床になる予定。

【 支出 】

- ・ 人件費 . . . 令和7年度は異動により人件費が多くかかった月があった。また昇給による人件費の増加もあった。令和8年度は正社員→非常勤、清掃員2名→1名、障がい者雇用2名→1名と人件費の減少が見込まれる。
- ・ 事業費 . . . 給食費など物価高騰の影響による支出増。
- ・ 事務費 . . . 防犯カメラの増設、通信機器のリース替え等あり。職員の定着により手数料の支出は抑えたい。
- ・ その他 . . . 令和5年度末に居室建具等取り換え工事費借入の返済が令和6年度から開始。令和12年までに完済予定。

2. 今年度の取組み

(1) 入所率の維持向上

行政の措置控えは進んでいるが、「見学者が増やす」「当施設希望者を増やす」を目標に取り組む。具体的には、居宅介護支援事業所、病院の地域連携室系の部署へ営業をかけ、当施設への見

学者が増えるようにする。また、見学者に対する対応時も当施設の魅力を十二分に伝えられるように、話し方を工夫し広告も作成する。

（２）職員体制の構築

① 業務効率の向上を図り、チーム力を強化する

- ・ 人員減少した為、より業務内容を見直し、効率よく業務を遂行できるようにする。
- ・ 職員間、部署間の連携が円滑に実施できるようお互いの立場を理解し、情報共有に努める。

② 人材育成・・・自ら考えて行動できる人づくり

- ・ 職員個々の個性を活かしながら、組織人として成長できることを目標とする。
- ・ 職員一人ひとりが主体的に物事を考え、行動できるようになる。

（３）地域に必要とされる施設を目指す

① 地域に根差した施設としての役割を果たす

- ・ 認知症等身元不明者一時保護事業の受諾、まちかど介護相談室の設置、大学生福祉体験や介護実習生の受け入れ、福祉避難所の登録等について、継続して対応する。

② 地域で開催される行事や会議に参加し、地域と交流する

- ・ 年長者の作品展（ココロツナグ展）、まち美化の清掃活動、校区の夏祭り、市民センターまつりなどの行事に利用者と共に参加する
- ・ 地域での貢献活動の機会を活かし、積極的に取り組む。（出前授業の参加、研修会など）

③ 地域との交流

- ・ コロナ禍で中止していた、幼稚園との交流や地域ボランティアの受け入れを積極的に行い、社会と利用者、施設の接点を創出し交流を促進させる。

３．ビジョン

* 職員一人ひとりが思いやりを持ち、お互いを高められる関係になる

- ・ ONE FOR ALL、ALL FOR ONE の精神
- ・ 職員間で互いを尊重し、相手の立場を考えて行動する

* 養護の役割を理解し、利用者様の生活の質の向上に取り組む。

- ・ 利用者様が安心した生活を送ることができるよう細やかな目線で対応する
- ・ 利用者様の生活状況を把握し、温かな関りを心掛ける

居宅介護支援事業所部門

居宅介護支援事業所 聖ヨゼフの園
管理者 山下 敦

1. 居宅介護支援事業所の体制整備と強化

A) 円滑な業務遂行・業務の効率化を図る

- ①事業所内で随時報告・連絡・相談を行うことにより、各ケアマネジャーがどの利用者の対応もできるようにする。
- ②研修や通達事項・他事業所等から情報収集し、制度に即した業務を行う。
- ③ICT（ノートパソコン、リモートソフト）を活用し、事務所外からも書類作業ができるように環境を整備する。
- ④AI ツールの活用で介護記録業務の効率化を図る。

B) 居宅事業所としての運営強化

- ①新規利用者獲得にむけての動きを継続し、安定的な収益の確保につなげる。
- ②特定事業所加算Ⅱを算定し、事業所の質の向上に努める。
- ③近隣病院・事業所・地域包括との良好な関係を維持し利用者紹介につなげる。
- ④リモートワーク導入することで、多様な働き方・働きやすさにつなげ、職員の定着を図る。

C) 事業所拡大路線へ向けての取り組み

- ①総利用者数を増やし、新しくケアマネジャーを雇用する基盤をつくる。

D) ケアマネジャーの質の向上

- ① 他法人との研修会の開催、外部研修への参加と事業所へのアウトプットに取り組み、各々がケアマネジャーとしての質を高めていく。

2. 事業の今期予算と経費削減

A) 令和8年度予算案

① 予算

(単位：千円)

	R7 年度収支	R8 年度予算	前年度比
年間収入	43,617	42,100	△1,517
支出（人件費）	31,655	30,500	△80
支出（事務費等）	4,544	4,895	351
資金収支	7,091	6,705	△386

※支出（事務費等）には新事務所改修返済金 90 万も含む

B) 経費削減の取り組み

- ① カラープリントの削減
- ② 事務所不在時の空調、電気関係の節電徹底、水道の節水など、水道光熱費の削減

3. 地域に馴染んだ事業所作りの推進

- ① 居宅利用者以外の介護相談にも応じ、地域関係機関とのネットワークを広げ、地域における聖ヨゼフの園の浸透化に努める。
- ② 青山、萩原地区の行事（盆踊り、市民センター祭りなど）に顔を出し、地域に根差した事業所になる。
- ③ 地域の方々への介護や施設についての情報発信、相談援助も積極的に行っていく。（まちかど介護相談室）
- ④ 社会福祉協議会の連絡調整会議へ出席し、地域の相談窓口になる。
- ⑤ 夜間・休日・緊急時にも携帯電話等による速やかな対応を行う。

4. 居宅介護支援専門員としての役割を果たす

- ①介護保険改正の把握と新しい知識の習得に努める。
- ②常に援助チームの中心としての役割を自覚し、業務にあたる。
- ③利用者のニーズを的確に捉え、自立した在宅生活を目指した対人援助を心掛ける。
- ④他事業所と連携し研修・勉強会などを行うことで、地域のケアマネジャーの質の向上に努める。

5. 法人内各部署との連携、地域関係機関との連携を強化する

- ①養護老人ホーム・特別養護老人ホーム・訪問介護・グループホーム・デイサービス・各部署との連携に努める。
- ②行政・地域包括・近隣医療機関や他事業所との連携を図る。

6. 今後のビジョン

順調に売り上げも伸びており、居宅支援事業所として法人への貢献度も高くなっている。
しかし、令和7年度末をもってケアマネジャーの1名退職があり、人員の補充に取り組んでいる。
その中でも、今後の事業展開として第2事業所の設立が必要である。

・R8年度

- ①ケアマネジャーの2名増員と第2事業所設立準備

※事務所改修費：1000万

年間90万の返済を行い、R9年度には返済終了予定

訪問介護・障害 事業計画

聖ヨゼフの園 ヘルパーステーション

管理者 吉竹 樹里

1. 事業所の体制整備と強化

A) 事業所としての運営強化

- ①営業活動を実施し、毎月新規利用者の獲得をする
- ②新規相談時には受け入れを積極的に実施し、丁寧な対応を心がける
- ③縦と横のつながりを大事にし、交流や情報交換ができるよう関係作りを構築する

B) 円滑な業務の遂行と業務の効率化を図る

- ①管理者とサービス提供責任者の会議を月に1回実施する
- ②自身の仕事の整理をし、優先順位をつけながら業務をおこなう

C) 法人内の部署としての在り方を意識する

- ①外部活動中は特に聖ヨゼフの園の職員として意識を持って活動をする。
- ②各部署との連携を強化し互いに認め合う。
- ③研修に参加、また人の成長目標に真摯に取り組み、組織人として成長する。

2. 事業の今季予算と経費削減

A) 令和8年度 予算

(万円)

	令和8年度
介護事業収入	4,530
障害・支援事業収	250
収入合計	4,780
人件費	4,050
事業費	190
事務費	190
支出合計	4,430
収支差	+350

このために、常時120名の契約者の維持が必要。3事業で利益を追求した業務をおこなう。

B) 経費削減の取り組み

- ①ケアパレット導入に伴いペーパーレスの取り組みを実施
- ②無駄な印刷物を省く

3. 地域と他事業所との連携

- ①園内外の清掃活動や出前授業など法人で行う地域貢献活動に参加する
- ②社会資源として地域に根差した事業所となる

4. 今後のビジョン

サービス提供責任者3名（管理者兼務1名）体勢で事業をしていくことで、利用者120名のケアをおこなっていく。登録ヘルパーの人数を増やし、無駄のないシフト作りをしていく必要がある。また、利用者様を新規で増やしていく事も必要ではあるが、ヘルパーの人数維持の為に、利用人数よりもケア数を増やしていく事で事業に貢献していきたい。

グループホーム 事業計画

グループホーム 聖ヨゼフの園
管理者 門三野 亨

1. グループホームのあり方

グループホームの定義とは「共同生活住居において、家庭的な環境と地域住民との交流のもとで入浴、排泄、食事等の介護、その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行う事により、利用者様がその有する能力に応じ自立した日常生活を営む事が出来るようにするものでなければならない」と定められている。

そこで援助会の経営理念と基本方針に則した事業・業務のあり方を基本とし、利用者様中心の家庭的なグループホーム作りを目指し、最期まで利用者様の意思を尊重し、また意思が引き出せるように努める。また、可能な限り自立した生活を送る事が出来るように自立支援を促し、利用者様自身ができることを活かした支援を行っていく。

2. 事業・業務安定化の取り組み

- ①組織作りを行い、職員育成をする。
- ②各種マニュアルを見直し。
- ③利用者様・ご家族の意向を踏まえた余暇活動の立案・実施。
 - * 施設内活動、町内行事参加、その他日常のレクリエーション 等。
- ④主治医や訪問看護ステーションと連携した利用者様の健康管理や体調変化への素早く対応する。
- ⑤リスク管理を徹底し事故をなくす。
- ⑥待機者確保と退所への迅速対応。
- ⑦職員教育を行い、ケアの質の向上と職員の定着を図る。
- ⑧外部研修や自主勉強会等の機会を作り、情報の取得、知識や技術向上の場を作る。
- ⑨本部との連携。
 - * 援助会の伝統と理念を鷹見台においても広め、本部と同じ精神のもとで事業を行う。
 - * 経営・業務関連等、本部と常に情報共有する。
 - * 研修や行事などでの本部との関わりを密にする。

3. グループホーム年間収支

	令和8年度
年 間 収 入 合 計	* 96,500,000 円
(介護報酬収入)	(69,300,000)
(利用者収入)	(27,200,000)
年 間 支 出 合 計	* 93,175,000
(人件費)	(65,400,000)
(事業費)	(13,110,000)
(事務費)	(6,235,000)
(その他)	(8,430,000)
収入差	+3,325,000 円

年間入所率98%を目標とする。

※令和7年度は病気で入院者が多く、目標である入所率98%を達成が難しく97%の見込みである。入所率98%を達成するためには、年間空床131日以内にしなければならない。

その為に、

- * 利用者様の事故での入院をなくし、健康管理を徹底し、入院を減らす。
- * 入院者が出た際は病院やご家族にアプローチをして短期間での入院とする。
- * 退所から新入所までの期間を短くする。その為に待機者を常時10名以上確保する。

上記3点を徹底する。

また、物品等の計画的購入で、無駄を省き経費削減する。

上記の内容を実行し、収支+3,325,000を目標とする。

4. 利用者様・ご家族・地域住民・外部との信頼関係

- ①利用者様・ご家族と積極的にコミュニケーションを取り、意見には素早く対応する。
- ②ご家族へは密に情報提供を行い、信頼関係の構築に努める。
- ③地域住民の方々の介護に関する相談窓口としての役目を果たす。
- ④鷹見台地域協定書を活かしていく。
- ⑤町内会に加入し、地域の活動や行事等に職員全員が意欲的に参加する。

5. 情報開示と交流による親しみやすいグループホームづくり

- ①運営推進会議を定期的（2ヶ月に1回）行い、情報を開示し意見交換の場を設ける。
- ②認知症カフェを定期的（3ヶ月に1回）行い、地域の方と交流を深める。
- ③他事業所や行政・地域福祉関係者等と交流し、相談・援助・信頼関係を築くなかで事業所の地位を確立する。

デイサービス 事業計画

デイサービス 聖ヨゼフの園
管理者 中尾 智子

1. デイサービスの主たる取り組み

【ビジョン】

【 北九州でNO. 1の認知症対応型デイサービスになる！ 】

- スタッフの質の向上（認知症ケアの専門性及び主体性の向上）
- 利用者様のニーズに合わせたサービスの提供
- 顧客との信頼関係の構築
- チームワークの向上

2. 収支について

令和7年度実績	利用料収入	43,060,000円	（食費込）
	支出	38,889,000円	
	実質差額計	+4,171,000円	
令和8年度目標	利用料収入	43,000,000円	（食費込）
	支出	38,990,000円	
	収支差額計	+4,010,000円	

※毎月稼働率90%を目指す

3. 人材育成

認知症ケアの基本的知識と技術の習得及び実践力、相談援助技術の向上を目指し、チームの総合力を強化する。研修、OJTにより指導を行い、定期的にフィードバックを行う。また、スキルの向上だけでなく、チームワーク力（協調力）の向上も目指していく。

4. 地域との交流

地域の行事や清掃活動に意欲的に参加し、交流を深める。特定の職員だけが参加にならないよう、全員が意識を持って地域との関係性を深める事ができるようにする。

5. 本部との関わり

法人の一体感、帰属意識を高める為、本部と合同の研修やイベントに積極的に参加し他部署との交流を深める。また、リーダーは日頃よりスタッフに対し、法人を基準とした指導を行っていく。

